#### 公益財団法人 日本社会福祉弘済会

## Welfare

2024

## 2025年度 社会福祉助成事業実施要綱

#### CONTENTS

- P2 2024年度社会福祉助成事業助成先一覧
- P4 2025年度社会福祉助成事業実施要綱
- P6 くっきり! 福祉の未来形 ~日社済助成事業成果報告~

家族介護者支援ネットワーク構築に向けた研修事業社会福祉法人東京栄和会なぎさ和楽苑(東京都)

社会福祉啓発講座「ヤングケアラーのためにできること」社会福祉法人品川総合福祉センター(東京都)

高齢化する障害のある人の暮らしとACPに関する調査研究社会福祉法人わたぼうしの会(奈良県)

支援機器活用セミナーin札幌 ~できてる?「アセスメント」&できる!「視覚支援」でコミュニケーション~ 特定非営利活動法人 Rumah kita(北海道)

- P14 「書き損じはがき」収集ご協力のお願い
- P15 福祉の共済コーナー



## 2024年度 助成金交付団体決定

2024年度の助成金交付先は、社会福祉向上を目指した研修事業と研究事業を対象として、49団体に1,826万円の助成を決定しました。今年度の公募においては、北海道から沖縄まで数多の社会福祉法人や一般(公益)社団法人、NPO法人、その他任意団体等から多方面にわたる事業内容の案件をいただきました。また、アジア福祉助成については5団体に150万円の助成を決定しました。

#### ■2024年度 助成先一覧 ■

#### 1. 社会福祉助成事業

A. 研何	A. 研修事業 42団体 助成額:1,479万円		
都道府県	団 体 名	事 業 名	
北海道	社会福祉法人 名寄市社会福祉協議会	令和6年度第1回市民ボランティア講座	
宮城県	一般社団法人 石巻グリーフサポート	べてるの家での取り組みを通じて精神障害を学ぶ	
埼玉県	社会福祉法人 むつみ会	フットケアの教育と実践のための研修事業	
千葉県	特定非営利活動法人 たすけあいの会ふれあいネットまつど	コロナ明けだからこそ、車での外出のお手伝いをしよう(福祉有償運転者講習会)	
東京都	社会福祉法人 いのちの電話	ボランティア相談員の研修	
東京都	社会福祉法人 桜雲会	楽善会訓盲唖院ものがたり 一障害児教育の歴史をふりかえる-	
東京都	社会福祉法人 東京コロニー 東京都葛飾福祉工場	「在宅就労セミナー2024」 開催	
東京都	公益社団法人 日本チャリティ協会	パラアート (障害者アート) 国際交流活動事業	
東京都	一般社団法人 CIS	space kids carnival 作品展覧会	
東京都	特定非営利活動法人 AYA	墨田区におけるアクセシビリティ向上を目指した、障がいのある子どもたちと興行施 設事業者のための実地調査・研修会	
東京都	特定非営利活動法人 たま咲良の会	ニュータウンでの地域・自宅看取り等を普及するための 「支え合い生協」 の設立を目指した啓蒙研修事業	
東京都	特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会	地域で共につながるひきこもりピアサポート活動のための全国交流研修会の実施	
東京都	特定非営利活動法人 カケルとミチル	「生きづらさ・育てづらさ」を学び・乗り越える方法を専門家と考えるセミナー	
東京都	ゆめ旅KAIGO!!フォーラム実行委員会	ゆめ旅KAIGO!フォーラム Vol.9 開催	
神奈川県	社会福祉法人 訪問の家 地域活動ホーム連	れんらじおと劇団れんで意思決定支援!	
山梨県	チームやまなぁし	転倒予防・歩行能力の維持を目的としたフットケアの啓発活動	
岐阜県	一般社団法人 サスティナブル・サポート	多様化する就労困難者への支援力向上事業	
静岡県	社会福祉法人 明光会	障害者生活支援シンポジウム~共生を目指す地域づくり~	
愛知県	特定非営利活動法人 ファミリーステーションRin	子育て支援者養成講座	
愛知県	愛知県重度障害者団体連絡協議会	『さあ。動き出す!アジア・アジアパラ競技大会と共に インクルーシブな社会創りを目指して』	
滋賀県	社会福祉法人 びわこ学園 びわこ学園医療福祉セン ター野洲	重症心身障害児者施設における口腔ケアチームの運用に係る『口腔ケアコンサル テーションプログラム』の活用	
滋賀県	社会福祉法人 心暖まる会 特別養護老人ホームサ ニープレイス彦根	心暖まる居場所づくり	
滋賀県	特定非営利活動法人 滋賀自閉症研究会たんぽぽ	令和6年度 自閉スペクトラム症にかかわる方のためのオンライン連続セミナー全3回	
大阪府	社会福祉法人 ふらっぷ	あーすまつり ~UP SIDE DOWN (ひっくりかえせ)~	
大阪府	社会福祉法人 視覚障害者文化振興協会	最新の福祉サービスのあり方等をテーマとした集合研修事業	
大阪府	一般社団法人 後見あしすと・アルファ事務局	大阪法人後見協議会	

#### 助成先の研修会・講習会の様子







## (社会福祉助成・アジア福祉助成)

都道府県	団 体 名	事 業 名
大阪府	公益社団法人 大阪聴力障害者協会	大阪府ろうあ者成人学校
大阪府	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪	高齢者虐待・不適切ケア防止研修
大阪府	特定非営利活動法人 サポートグループほわほわの会	困難に直面した当事者・経験者から学ぶ支援や子育て事業
大阪府	特定非営利活動法人 ジェイズ・マス・クワイア	精神障碍者と愛着障碍児の心の回復コンサート「なにわゴスペルフェスティバル」
大阪府	特定非営利活動法人 南大阪サポートネット	ひきこもり当事者家族支援基礎講座
大阪府	地域見守り隊	地域貢献寿命アップ推進事業
兵庫県	神戸市立科学技術高校	海外での車いす修理活動及び家庭訪問
和歌山県	和歌山重症心身障害研究会	第11回和歌山重症心身障害研究会の開催
岡山県	一般社団法人 KaiKai	高知県にある重症児デイサービスへの研修事業
岡山県	特定非営利活動法人 ライフデザイン	福祉型専攻科の実践を学び、理解を深めるための職員派遣研修
香川県	社会福祉法人 洋々会	住み慣れた庵治町で楽しみや生きがいを持って生活を送れるように地域共生社会の 実現を目指す事業
福岡県	一般社団法人 久留米健康くらぶ	各地区の認知症カフェ連携で、介護家族3本柱の一括相談会研究事業
大分県	特定非営利活動法人 マックネットシステム	訪問看護師へのマインドフルネスを活用した支援者支援研修
宮崎県	南九州大学 人間発達学部 子ども教育学科 山之内 研究室	高齢者・障害児者の心を癒すポケットオルゴールの開発と寄贈活動
鹿児島県	社会福祉法人 寿康会	人と地域でつながる街づくり
沖縄県	特定非営利活動法人 いきがいLABO	介護の魅力発信プロジェクト

#### B. 研究事業 7団体 助成額: 347万円

D. 柳儿事未 「四件 奶,成. O. T. [7] ]				
都道府県	団 体 名	事 業 名		
北海道	特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	ひきこもり当事者の老後を支え合う協同実践事業		
東京都	一般社団法人 日本車椅子シーティング協会	WHO等国際機関の車椅子・支援技術関係資料翻訳事業		
東京都	特定非営利活動法人 ネスト・ジャパン	自閉スペクトラム症の特性に特化した最適な余暇活動支援のあり方に関する研究		
愛知県	特定非営利活動法人 こどもサポートネットあいち	東海3県の児童養護施設における食事状況等調査(そのⅡ)		
三重県	社会福祉法人 高田真善会	特別養護老人ホームにおける音楽療法の実際とその効果		
和歌山県	特定非営利活動法人 near	和歌山県南部および近隣地域における医療的ケア児と家族が抱える課題の探索的調査		
沖縄県	特定非営利活動法人 まくとうー	要配慮者を守り、支援意識とソーシャルワーク向上プログラム		

#### 2. アジア福祉助成事業 5団体 助成額: 150万円

国	所属	事 業 名	
フィリピン	バハイ・トゥルヤン財団	児童養護施設の子どもたちの親への介入	
タイ	VDA	VDAの潜在的なボランティアたちの能力開発	
タイ	ルアム・ミット青少年財団	「障害をもつ子どもたちの保護者に対する代替職業の促進」プロジェクト	
スリランカ	センカダガラ盲聾学校	聴覚障害児の未来に向けて、プロの絵を学ぶ	
インドネシア	ソシエタ・インドネシア	農村地帯の障害児のための包括的な保育サービス	

#### 助成先の研修会・講習会の様子







#### くっきり! 福祉の未来形

## 社会福祉助成事業 実施要綱

申請期間:2024年11月1日~2024年12月15日

#### 2025年度日社済「社会福祉助成事業」のご案内

公益財団法人日本社会福祉弘済会は、少子高齢化が進展し、多様化する福祉需要のなかで社会福祉の向上を目指した"研修事業"や"研究事業"に助成することにより、豊かな福祉社会の実現に寄与することを目的といたします。

2025年度も下記の通り、社会福祉関係者(社会福祉施設等社会福祉事業に従事する方々等)に係る研修・研究事業に対して、公募による助成事業の募集を行います。

#### 助成対象事業と助成対象経費

#### 【研修事業】

- ①対象事業
  - ○福祉施設職員の方などを対象としたケース 福祉施設職員等が幅広い視野と専門性を持って福祉サービスの支援業務向上に携わるために実習する研 修事業
  - ○地域住民の方などを対象としたケース 福祉サービスのあり方や専門的知識・技能の習得などをテーマとして開催される集合研修事業(研修会、セミナー、講演会など)
- ②対象経費
  - ○講師謝金•交通費•宿泊費•会場費•報告書作成費

#### 【研究事業】

- ①対象事業
  - ○福祉サービスの向上等を目的とした先駆性ある事業の実践を通して行われる研究事業
  - ○社会福祉関係者の専門性の向上、現任訓練の方法や体系、また就労、福利厚生などをテーマとする調査研 究事業
- ②対象経費
  - ○研究事業費・調查経費・謝金・原稿料・報告書作成費

#### 2 事業実施期間と助成金額

- ①事業実施期間
  - 2025年度(2025年4月から翌年3月末)中に実施される事業
- ②助成金額
  - 1件(1団体)あたりの上限額50万円(総額2,000万円以内)
  - ※助成対象経費合計の80%以内かつ50万円以内となります。



#### 公益財団法人 日本社会福祉弘済会

申請書用紙等はホームページからダウンロードください





#### 3 申請条件

- ①申請団体は社会福祉事業や福祉施設の運営、福祉活動などを目的とする社会福祉法人、福祉施設、福祉団体などとします。(申請は1団体、1事業とします。)
- ②法人格のない任意団体、グループは申請書下段に市区町村社会福祉協議会の推薦を得て、申請書をご提出ください。
- ③反社会的勢力及び反社会的勢力と関係すると認められる法人、団体からの申請は受付けいたしません。
- ④助成対象となった場合、団体名、代表者氏名、所在地、事業内容、助成金額等を公表いたします。 また、実施事業に参加もしくは事後に訪問することがありますので、ご了承の上お申し込みください。

#### 4 申請方法

- ①申請書 2024年9月中旬以降に、日本社会福祉弘済会のホームページ(https://www.nisshasai.jp/) をご覧ください。申請書用紙等はホームページからダウンロードの上、ご使用ください。
- ②申請期間 2024年11月1日~2024年12月15日
- ③提出先 下記アドレスに申請書を添付のうえ電子メールにて申請してください。 E-mail:jyosei@nisshasai.jp



※申請方法についてご不明な点があればご相談ください。 TEL:03-5858-8125

※申請書に記載されている個人情報は本事業の選考に関わる業務のみに使用し、それ以外には使用いたしません。

#### 5 添付資料

申請時に下記資料をご準備ください。必要に応じてご提出いただくことがあります。

- ①申請団体の定款(任意団体は規則、規定)
- ②申請団体紹介パンフレットや団体発行の機関誌など
- ③申請団体の直近の事業報告、決算書
- ④申請団体の役員(会員)名簿

#### 6 審査と結果通知

- ①申請案件は予備審査後、選考委員会の選考を経て、理事会(3月開催予定)で決定します。
- ②選考結果は採否に関わらず決定後、各申請団体にご連絡いたします。(2025年3月下旬予定)
- ③申込み書類は返却いたしません。

#### 7 事業完了報告書の提出

助成事業終了後1ヶ月以内に、事業完了報告書をご提出ください。

※事業完了報告書の作成要領は、助成決定時にご通知いたします。

#### 家族介護者支援ネットワーク構築に向けた研修事業

社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ和楽苑 施設長 池田 めぐみ

#### 1. 団体の紹介

昭和40年に特別養護老人ホームを創設し58年を迎えます。昭和55年9月に江戸川区へ移転開設し、常に先駆的な在宅サービスを展開してまいりました。平成17年にはユニットケア特養を基盤とした施設に全面改築。この間、平成7年5月の「千代田区立一番町特別養護老人ホーム」開設、平成14年には法人分離し「東京栄和会」として設立、その後、平成27年4月には「うらやす和楽苑」を開設しております。また、令和2年11月には相談支援事業所、令和3年4月には障害者短期入所事業と、障害サービス事業も開始しております。

「地域と共に歩む」を基本理念に、「人としての思いやりの 心に基づく介護の実践」を目指し、社会福祉法人としての 責務と役割を果たして参りたいと考えております。

#### 2. 助成事業概要

地域包括支援センターや若年性認知症支援事業(当 苑自主事業)、令和2年より開始した障害者の計画相談 事業等より、家族介護者が、認知症介護等の困難さ、 世帯内の重複課題、介護と仕事の両立の困難さ、介護 協力者不在等、様々な要因の中で介護に向き合う現状 を多く目にして参りました。令和3年度より3ヵ年で 本助成事業を受け、「家族介護者支援ネットワーク構築」 をテーマに、初年度は家族会等の実態調査及び支援機 関へのニーズ調査を実施。2年目は実践活動として、ネットワーク連絡会や研修会の開催、家族会等紹介パンフ レットの作成に取り組みました。

今年度は2ヵ年の取組を基に、更なる家族介護者への支援力向上・区内のネットワーク発展を目指し、(1)ネットワーク連絡会の開催(令和6年2月3日、区内家族会・オレンジカフェ団体間での意見交換等)、(2)研修会の開催(「認知症介護に取り組む家族への支援のあり方について(同2月17日)」、「多様性のある介護~ダブ

ルケアについて学ぶ~(同3月2日)」)、(3)家族会等紹介パンフレットの作成(改訂版)に取り組みました。

#### 3. 事業の成果

#### (1) ネットワーク連絡会・研修会の開催

区内家族会等団体と支援機関とのネットワーク強化、 及び区内の家族介護者支援の更なる体制構築を目指し、 ①ネットワーク連絡会、②研修会の開催に取り組みました。 ①連絡会:前年はオンライン開催に留まりましたが、 本年は集合型での開催に取り組みました。家族介護者、 行政職員、家族会・認知症カフェ運営団体、地域包括 支援センター職員、本助成事業のスーパーバイザーを 迎え、各団体の運営状況等を発信頂きました。支援を 必要としている家族介護者が家族会等事業に「つなが りづらい」実態を、それぞれの団体が課題認識している ことを共有し、家族会等活用に関する好事例の効果的 な発信、医療機関も含めた多職種からの重層的・継続 的なアプローチの必要性、家族会等運営課題等の解決 に向けた意見交換の継続(連絡会参加団体数の増加も 目指す)、等に向けて、今後も行政機関と共に検討を続 けることを確認致しました。



②研修会:昨年に引き続き、「家族介護者支援の輪を広げよう!」をメインテーマに、認知症介護・ダブルケアに取り組む家族支援のあり方を取り上げたセミナーを開催致しました。ケアマネジャー・地域包括支援センター等の支援者の参加が多く見られた他、当事者・家族、ボランティア等の参加も見られ、課題提起に一定の成

果があったと考えます。両セミナー共に参加者の交流 の時間を設けたことで、支援者は具体的な支援方法を 学ぶと共に、当事者・家族の生の声を聴き、支援者が 果たす役割について再認識する機会となったとの声を 多くいただきました。





#### (2)家族会紹介パンフレット作成

区内家族会・認知症カフェの紹介パンフレットの改訂版を作成致しました。各団体にヒアリングを重ね、新型コロナウイルス5類移行後に活動を再開しているカフェ情報等を追加掲載した一方、高齢者施設等のスペースを活用していた複数のカフェが活動再開に至っていない状況も確認致しました。また、活動を中断したことで参加者の足が遠のく、時間の経過による参加者の大幅な入れ替えも見られ、コロナ禍前と同様の活動が出来ていない実態も浮き彫りになりました。



#### 4. 成果の広報・公表

本研究事業の取り組みをまとめた報告書を作成し、令

和3年度の実態調査協力機関(家族会等、高齢・障害 支援関係者等、約350機関)やその他行政を含む関係機 関へ、改訂版の家族会紹介パンフレットと共に郵送配布 し、今後もセミナー開催やネットワーク連絡会開催等の機 会に合わせ、定期的に関係機関へのパンフレット配布を 続けます。初年度の本事業実態調査にて、支援者の約半 数が「家族会・オレンジカフェ等の情報に詳しくない」と 回答した結果を重視し、支援者が「家族介護者支援のあ り方」について認識を高める機会づくりにつなげると共に、 支援者を介して家族介護者が家族会・オレンジカフェ等 の情報を提供できる仕組みづくりを進めてまいります。

また、当苑のホームページやInstagram等にも、家族会紹介パンフレットや本事業の実践報告等を掲載し、3ヵ年の取組について周知・啓発を続けると共に、家族介護者がいつでも情報を入手しやすいよう、わかりやすい発信を心掛けてまいります。

#### 5. 今後の展開

#### (1) ネットワーク連絡会・研修会の継続開催

3 ヵ年の助成事業の活動を継承し、当苑若年性認知 症支援事業や施設イベント(介護の日に関するイベン ト等)と連動させた、家族介護者支援に関する研修会開 催を継続してまいります。

また、年1回程度のネットワーク連絡会を継続し、区内家族会・オレンジカフェ等のネットワーク強化に引き続き取り組みます。連絡会に参加する団体数を拡大し、区内全域でのネットワーク展開を目指すと共に、多職種連携に関する会議や研修等での発信の場を設け、高齢・障害・医療機関等の専門職が家族介護者に対し重層的・継続的家族会等の介護者支援に関する情報提供等に取り組める体制づくりを進めます。他、会の運営に関するノウハウや課題等を共有し、支援機関の後方支援やボランティア等とのマッチングも進めながら、家族会等の運営力向上を目指して活動に取り組んでまいります。

#### (2)家族会紹介パンフレット作成

区内家族会等紹介パンフレットの配布を継続し、家族 介護者の方が情報を得やすい環境づくりに努めます。今 後のネットワーク強化にて、今回掲載できなかった精神・ ひきこもり等の家族会情報等の掲載についても、関係機 関との意見交換を重ねながら検討してまいります。

#### 社会福祉啓発講座「ヤングケアラーのためにできること」

社会福祉法人品川総合福祉センター 理事長 永田元

#### 1. 団体の紹介

昭和57年に設立。「地域とともに」の理念をもとに、現在は、児童・障害・高齢、在宅支援から施設支援まで、品川区内で32の事業を行っています。

また、開設当初から地域福祉に特化した地域福祉課を 設置し、すべての人の幸せのために、社会的なニーズに 目を向け正しい理解を促進し、認知度を高め、地域にお ける支え合いへつなげることを目的に、福祉啓発講座や、 福祉教育を行っています。

#### 2. 助成事業概要

目的「高齢者」「障害者」「児童」の枠にとどまらず、すべての人の幸せのために、社会的なニーズに目を向け、正しい理解を促進し、認知度を高め、地域における支え合いへつなげることを目的に啓発講座を実施する。

#### ①品川区内中学校での福祉講座

- ・教員向けミニ講座:ヤングケアラーについて事前に教員より質問受け、講師が質問に回答・ミニ講座でレクチャー。
- ・8年生と地域住民が学ぶ福祉講座:講師の講演の後、 生徒と地域住民がグループワークで学ぶ。

#### ②区民向け福祉啓発講座

幅広い区民の理解に向けた啓発の機会は少ないため、 今回はヤングケアラーの現状と思いを理解し、知ることからできることを考える。今後に繋げるきっかけとなるよう、 実際に支援の機会を広げている実例を学ぶ。

日時: 令和6年2月17日(土) 14時から16時半

会場:品川区大井町きゅりあん

第一部 ~ヤングケアラーに光を~

講師:町 亞聖氏 (フリーアナウンサー・元ヤングケアラー) テーマ:「ヤングケアラーに光を〜十八歳からの十年介護〜」 第二部 〜学習支援を入り口にしたヤングケラー支援〜

講師:土屋 匠宇三氏

(一般社団法人 彩の国子ども・若者支援ネットワーク 理事)

テーマ:「ヤングケアラーの実態とその支援 ~学習支援13年で子供たちから学んだこと~」

#### 3. 事業の成果

#### ①品川区内中学校での福祉講座 (教員向けミニ講座、8年 生と地域住民が学ぶ福祉講座)

子どもに近い現場の学校や教員が学校業務の忙しさ等で、ヤングケアラーに関して現状が把握しにくい状況がありました。当センター地域福祉課では、地域の課題やニーズについて、子どもたちへの福祉教育の機会を定期的に設けている実績を活かし、共に学ぶ機会を地域の学校に提案。積極的にヤングケアラーの課題に向き合いたいという中学校の校長先生の想いと合致し、実現しました。

○教員向けミニ講座:事前に教員からの「ヤングケアラー」に ついての質問に、元ヤングケアラーの講師が回答書を配布。 更にミニ講義で55名の教員の理解を進める機会が作れた ことは、教員のリアルな疑問に即時回答し、すぐに実践に移 せる機会にもつながり、有益な時間となったと感想をいただ きました。時間が多く取れなかったことが課題です。



○福祉講座:学校とPTA、区の子ども家庭支援センターの協力を得て、生徒と地域住民がグループワークを実施。 8学年生の88名の生徒と地域の大人約20名(PTA役員、地域の児童委員、青少年対策委員、町会長、保育園園長、福祉関係者等)が、意見交換し学び合うことで、地域の課題を共有、次に何をするべきかというヒントを得、生徒の理解が深まったという感想をいただきました。



#### ②区民向け福祉啓発講座

幅広い区民に向けたヤングケアラー啓発講座の機会がまだ少ない中、今回はヤングケアラーの現状と思いを理解し、実際に子どもの支援の機会を広げている実例を学ぶ講座を実施。会場参加とWEB参加の同時開催、当日は86名が参加。困った時に誰かを頼る受援力の大切さはお二人が語られました。

「困りごとを言語化することの難しさを理解しておこう」、「子どもたちが、夢をあきらめないよう、必要なタイミングで必要な支援が大切だとわかった」、「子どもの願いを中心に支援を考えることの重要性を学んだ」、「まずは子どもの身近な、"信頼される大人"になることというヒントをいただけた」、「実践者お二人のお話は大変分かりやすく心を打つ内容で、勉強になった」、「感動した」、「言葉だけ知っていたが、知ることができて心持が大分よくなった」など参加者の感想をいただきました。

今年度は区民や地域に呼び掛けることができ、昨年より も広い対象約250名の参加者からも、関心が高まっている のを感じています。参加できなかった区内の関係者・保護者・ 学校PTA役員等からも再企画を願う声が届いています。今 回は教育機関の理解があり、当事者に近い中学生から高齢 者までの幅広い区民と学び合うことができたのも、この助成 事業のおかげです。



#### 4. 成果の広報・公表

・品川区のケーブルTVでの当日取材を経て、当日の様子を

しながわケーブルTVで、3月9日~12日放送。その後は「わ!しながわニュース」のYouTubeチャンネルで放送中。

- ・品川区ホームページ「2024年しながわ写真ニュース」2 月17日付で紹介中。
- ・社会福祉法人品川総合福祉センター法人広報誌令和6年度4月1日号に実施報告、掲載予定。1900部を配和区長始め品川区関係各課、品川区議会議員、区内関係機関各所長、区内学校関係、福祉関係機関、ボランティア、NPO、地域町会自治会長、施設ご利用者・ご家族等)
- ・社会福祉法人品川総合福祉センターホームページで紹介。
- ・品川区・品川区社会福祉協議会へ実施報告。
- ・法人内理事会、地域関係者会議等で報告。

#### 5. 今後の展開

「ヤングケアラー」について、名称は聞いたことはあるが、 よくわからないという関係者が多かった令和4年に区民向 けの講座の第1回目を行いました。令和5年度の区民向 け講座開催は第2回目。

区や都で、専門職向けのヤングケアラー講座や研修の開催が増え、関係者間では、ケアマネ中心に理解が広まっているが、区民の理解にはまだまだ課題があります。一番子どもに近い地域区民の理解や気づきが大きな支えになることを考えると、区民向けの啓発は、非常に重要だと考えています。今回も広くPRし、多くの方の参加に繋がり、理解を深めることができました。

今年、理解を進める対象者が、中学生から大人、高齢者までとなり、この幅広い取り組みが実現できたのも、助成いただいたおかげであり、心から感謝しています。確実に理解者は増えていますが、課題は奥深く、時間をかけて啓発活動は継続していくことが必要だと考えています。

「ヤングケアラー」を取り巻く現状は、子どもだけではなく、 家族の問題も大きく影響します。その家族は、我々が常 に向き合っている福祉支援の対象者として、支援すべき対 象者でもあります。まだ支援の手が届いていない中で、子 どもの声や願いを中心にどう支えていくかが大きな課題で す。今回の講師の講演で、子どもをどう支えるかのヒント を得ることができました。地域の声、子どもの声を聞きな がら、地域とのつながりやネットワークを活かし、できる ことを検討しています。

#### 高齢化する障害のある人の暮らしと ACP に関する調査研究————

社会福祉法人わたぼうしの会 理事長 播磨 靖夫

#### 1. 団体の紹介

「やさしさ」を活動の基調とし、たくさんの思考錯誤と多くの人たちとのつながりを通して、文化と夢のある社会づくりに取り組んでいます。障害のある人、子どもや高齢の人などが安心して地域のなかで生きていくことを支えるために奈良県内(奈良市、香芝市)に活動拠点をもち、生活介護、就労継続支援A・B型、放課後等デイサービス、居宅介護、短期入所、相談支援、福祉ホームなどの社会福祉サービスやこども食堂の運営などを行っています。

#### 2. 助成事業概要

2021年度、「高齢化する障害のある人の暮らしに関する調査研究事業」を実施しました。その後も、現場では当然のごとく老いや病に関する問題が次々と発生し、そこに向き合う日々が続いています。このような日々の実践のなかで、私たちは、「老い」や「病」のさらにその先にある、個々人にとってより望ましい死の迎え方について研究し、考察を深める必要性を感じるようになりました。

障害のある人が老いや病でより一層のケアが必要になったとき、どこでどう暮らすことができるのか、障害のある人の暮らしの場の選択肢はあるのか、どのような環境が整えば安心して生活できるのか。また、日常生活全般において介助が必要な人が、「自分らしく生きて、死んでいきたい」と思ったとき、その意志を聞き取って支える仕組みはあるのか。

この調査研究事業では、当事者参加型によるACP (アドバンス・ケア・プランニング)を考えるプログラムの実施、研究会の開催、全国各地で高齢化や重度化する障害のある人たちが暮らす場について先駆的な事例調査等をとおして、上記の課題について検討を重ねました。

#### 3. 事業の成果

(1) 高齢になりつつある障害のある人に対するインタビュー

高齢化する障害のある人の暮らしと、エンディング ノートの取り組みについてインタビューを行いました。

#### (2)研究会の開催

#### ○"もしバナゲーム"を使った研究会・体験会

当事者参加型によるACP(アドバンス・ケア・プランニング)を考えるプログラムとして、一般社団法人iACPが発行している"もしバナゲーム"を使った体験会と、もしバナマイスターの久保田千代美さんを招いた講義を行いました。体験会は、障害のある人のみが実施する会、障害のある人・支援者等を対象にした会、支援者の会議の時間を使って行った会、障害のある人の家族を対象にした会など、複数回実施しました。

"もしバナゲーム"というカードゲームを使って、「人生の最期にどうありたいか」を考える機会となり、参加





者からは「ゲームとはいえどのカードを選ぶか真剣に悩みました」「なかなか最期の望みを考えることはなかったが自分の思いを確かめられた」などの感想が寄せられました。障害のある人が参加するにあたっては、カードを選びやすいような工夫も行いました。

### ○「障害のある人のACPについて考える~アドバンス・ケア・プランニングって何だろう~」

重症心身障害児学園・病院バルツァ・ゴーデル院長の 羽多野わかさんを講師に招き、研究会を行いました。





#### ○介護保険サービスについて知る研究会

「介護保険サービスの利用についてあれこれ」を百武佐栄子さん(居宅介護支援事業所どんぐりの実主任介護支援専門員)お招きし、65歳周辺の障害のある人とともに、介護保険について学ぶ研究会を開催しました。また、支援者を主な対象者として、「高齢の人の住まいの場について」を柳川剛秀さん(奈良市二名地域包括支援センターセンター長)をお招きして、住まいの場について考えました。

#### (3)事例調査

先駆的な取り組みを行っている全国各地の障害のある 人が暮らす場の見学、「ケアする人のケアセミナー in鎌 倉」にてケアに関する知見の収集などを行いました。

#### 4. 成果の広報・公表

今回実施した調査研究に関する報告書「豊かな老いに 寄り添う~高齢化する障害のある人の暮らしとACPに関す る調査研究事業」を500部印刷し、希望する個人や団体 に配布する予定です。また、インターネットサイトの「ケ アで広がる、ケアでつながる支えあいの情報モール『HELP ON HELP』」、法人で発行している「たんぽぽ通信」等の 広報誌でも内容の一部を掲載しています。

掲載内容をご覧いただいた方や、研究会のご案内見ていただいた方から、「テーマに関心があるので類似の取り組みがある際はお知らせがほしい」などのお声をいただいています。今後実施していく"ケアでつながるケアで広がる支えあいカフェ"でも、障害のある人の高齢化、もしものときをテーマにした活動を実施していく予定です。

#### 5. 今後の展開

高齢期を迎え、迷いや戸惑いは、障害のある人本人だけでなく、それを支える家族や支援者にも生じます。ACPについて話を聞くと、社会や医療の変化によって、医療の場面でも治療法等を選択する必要が出てきたことで、何を選ぶのかを決めなくてはならなくなったことがわかりました。選ぶためには、知識や情報が必要ですが、誰も初めて出会うことに対して正確な知識や情報はもっていません。特に「もしも」のときのことをあまり考えたり、話し合ったりする機会は少ないのではないでしょうか。いざというときには、話もできない状況にもなります。日頃から身近な人と、大事にしていることや生き方、自分の考え方など、もっといろいろな話をしておくことが豊かな高齢期の生活をつくっていくのではないかと思います。

この調査研究を通して得た知見をもとに、もしものときのことを話すことのできる"ケアでつながるケアで広がる支えあいカフェ"を定期的に開催し、もしバナゲームの体験や介護食の試食会など高齢期を豊かに生きるための情報交換の場をつくっていきます。

## 支援機器活用セミナー in 札幌 ~できてる?「アセスメント」&できる! 「視覚支援」でコミュニケーション~

NPO 法人 Rumah kita 代表理事 吉田 美知代

#### 1. 団体の紹介

当法人は重症心身障害児者の母親が集まり、「重度の障がいがあっても、地域でともに学び・遊び・働き心地よく暮らす。をお手伝い」を合言葉に活動を始めました。活動内容は「重心児者の身体に合わせた防寒具の製作」による外出支援、「当事者が製品づくりに関わる」ことでの社会参加、この製品づくりと生活をより豊かにするための「ATの活用・相談」により、重心児者とその家族・支援者の学びと遊びを支援していく活動を行っています。

#### 2. 助成事業概要

昨年、当法人は札幌市内にて視線入力をテーマとした研修会を開催したことで、地域の重心児者に関わる福祉・教育関係者の支援機器(= Assistive Technology 以下AT)活用についての理解が深まり、療育に取り入れる事業所が増加しました。一方で、AT機器を導入したものの、その後個別に合わせた支援がうまく進められずに悩んでしまう支援者からの相談も増えてきました。これらの相談内容からは、せっかくのAT機器が活用されず、結果として障害児者の学習や活動の機会が奪われてしまうことが懸念されます。このことから、障害児者に関わるあらゆる領域・立場の方々向けに、ATを活用しながらコミュニケーションを取るための見立てや方法について学ぶ機会と、事例を通して支援・学習・療育の進め方を互いに検討していくための研修会を企画開催しました。

【実施日】1回目: <会場開催>2023年7月23日(日) <録画配信>7月29日~31日/8月10日~14日 2回目: <フォローアップセミナーZOOM開催>10月

29日(日)<録画配信>11月6日~11月26日 【会場】1回目:札幌市立北翔支援学校/後日視聴

2回目:オンライン開催/後日視聴

【講師】青木高光氏(国立特別支援教育総合研究所・特任研究員)

【内容】1回目:午前の部・視覚支援はなぜ必要か?/午後の部・障害の重い子のコミュニケーション支援 2回目:フォローアップセミナー/講師と参加者による 事例検討

#### 3. 事業の成果

1回目であるセミナー会場では、午前・午後を通して 青木氏より、視覚支援を中心としたコミュニケーションの具体的な方法や、肢体不自由や重度の知的障害の子どもを中心としたアセスメントの話題、ATを使う上で支援者が留意していくべき視点などについてお話をいただきました。当日は重心児者当事者家族、児童発達支援・放課後等デイサービス等の福祉施設スタッフや管理者、特別支援学校教員、看護師、セラピスト等、様々な立場の方に参加いただくことができました。直接対面による参加者は32名で、熱心にメモをとりながら講師の話に聞き入る様子が見られました。また、当日の様子を録画し、後日動画視聴を可能としたことで、北海道外からも視聴の申し込みをいただき、全体で77名の方々に参加いただく事ができました。

2回目のフォローアップセミナーでは、1回目のセミナーを踏まえ、実際に支援している場面での困りごとや内容について発表いただき、青木氏をはじめとした参加者の方々と意見交換する目的で開催しました。1回目のセミナーから参加者人数は大幅に減ったものの、当事者の母と支援学校教員より支援事例の提供をいただき、それぞれの立場から次のステップへの進め方や新たな視点の捉え方など、青木氏によるアドバイスをいただきながら意見交換を行うことができました。

今回のセミナーでは、視覚支援やアセスメントの必要性や可能性を感じながらも、なかなか日々の生活や 学習・療育場面で取り入れることへの迷いや活用方法 について疑問点を多く感じている方や、さらなる視座を深めたいという方に参加いただくことができました。さらには、1度きりの受身的なセミナー参加で終了するのではなく、「フォローアップセミナー」として、障害児者に関わる保護者・支援者、教師が日頃の実践を発表し、新たな視点を見出す機会を設けたことで、お互いに刺激を受け、その後の支援を深めることができるようになると考えています。





#### 4. 成果の広報・公表

セミナー終了後に行ったアンケートでは「パニックの記録を取り、対策を考えてみようと思う」、「日常の中でアセスメントを行なっていきたい」、「子どもの様子を思い浮かべると、そういうことだったのか……と気づくことがあった」という声や、「これまでカードの存在は知っていたが、実際に使ったことはなかった。今後の支援に役立てていきたい」、「ASDや場面緘黙のある子どもに言葉での理解が難しいことがあるので、視覚支援カードの実践をしてみたい」という声をいただきました。特に会場参加された方々はセミナー終了後も活発に青木氏や参加者同士で交流を行なっていた様子が見られ、オンライン配信のみでは得られない情報や意見交換が行えている様子でした。これらのアンケー

ト結果は研修終了後講師へ直接お伝えするとともに、 HP上でも公開させて頂きました。全体的に参加者の満 足度は高く、研修で得た知見や内容を次の支援に繋げ ていただける機会ができたと考えております。

#### 5. 今後の展開

障害児者の支援や学習場面でも視覚支援が取り入れられることで、自分のスケジュールが理解できる場面や周囲に自分の気持ちを伝えることに繋がります。また、重症心身障害児者のアセスメント方法を知り、ATを活用することで、客観的にできている事を整理し、コミュニケーションの糸口を見出すことが増えていきます。さらに、様々な立場や職種を超えて支援方法について活発に意見交換することで、その後の教育や支援の内容を深めることに繋がると考えています。しかし、当事者の保護者や福祉関係者にとって、AT活用や支援方法を学ぶことのできる機会は、北海道ではまだまだ少ないのが現状です。

今後も当法人では、障害児者の教育や支援の先駆けとなっている講師をお招きし、セミナーやイベントを地域で開催していくことで、教育や福祉、医療など当事者に関わる者同士が楽しみながら学び合うネットワークづくりや、家族や支援者の「自分たちも、チャレンジしてみよう」という前向きな気持ちを支えることにつながると考え、引き続き活動を続けていきます。



#### いつでも、誰でも「はがき1枚」から参加できる ボランティア活動。

―「書き損じはがき」の収集にご協力をお願いします―

「空飛ぶ車いす」は、日本で使われなくなった車いすを 日本の工業高校生が修理・再生して アジアに贈るボランティア活動です。



「空飛ぶ車いす」は、 多くのボランティアに支えられています。

#### はがき収集 ボランティア

全国の「はがき収集ボランティア」から届けられた「書き損じはがき」を切手に交換し、さらに企業等の協力により切手を現金化して"パンクしないタイヤの購入費用"や"工業高校から国際空港までの車いす輸送費用"に充てています。

#### 修 理 ボランティア

工業高校のクラブ活動や 課題研究等授業の一環で 車いすの修理を行います。

#### 輸 送 ボランティア

ビジネスや観光などで アジア各国を訪問する際に、 搭乗機手荷物として 運びます。

#### ご寄付をいただいた皆さま

(2023年1月~12月)

数ある団体の中から当会の趣旨に賛同いただきご寄付を賜りました皆さまに 感謝申し上げます。温かいご支援ありがとうございました。 (敬称略・順不同)

#### 福盛 寿幸

新居浜市ボランティア・市民活動センター 神栖市社会福祉協議会 波崎支所 ジブラルタ生命保険株式会社 神栖市社会福祉協議会 神栖本所 三菱総研DCS株式会社 医療法人社団 紫雲会 千葉南病院 岩手県社会福祉協議会 ※匿名希望の方からもいただいております 三島 成久 兵庫県立相生産業高等学校 日立市社会福祉協議会 竹谷 尚人 木村 芳枝

デイサービスセンター 共楽苑 NPO法人ワーカーズ・コレクティブ たすけあい せや

お問い合わせ・ はがき送付先 公益財団法人 **日本社会福祉弘済会**  〒136-0071 東京都江東区亀戸 1-32-8 URL ▶https://www.nisshasai.jp/ TEL. 03-5858-8125 FAX. 03-5858-8126







#### ジブラルタ生命「Myページ」のご案内

#### ▶ご利用方法 ◀

ご利用いただくためにはまずはMyページにご登録ください。



こちらから簡単にお手続きできます



Myページ ご案内ページ

https://www.gib-life.co.jp/st/mypage/?top



#### ▶ 提供サービスのご紹介 ◀

~Myページではお客さまの人生に末永く寄り添いサポートするために、 さまざまなサービスを提供しています~



お客さま担当への連絡

- ●担当への連絡リクエスト(\*1)
- ●担当者の確認



LIFE Well (ライフ ウェル) の利用

- ●オンライン診療
- ●オンライン医療相談
- ●生活習慣病やガン、認知機能のリスク予測



契約内容の確認

- ●保障内容や保険料など
- ■払込保険料の累計額<sup>(\*2)</sup>
- ●解約返戻金の試算(\*2)
- ※為替レートも確認できます

#### 重要書類・通知物の確認

- ●保険証券など(\*3)
- ●ご提案した生命保険の設計書など
- ●当社からの通知物(電子通知)

#### 各種お手続き

Myページで利用可能なお手続き	お手続き内容
<ul><li>契約者貸付金の請求</li></ul>	
●「ご家族登録制度」への登録・変更	
●住所·電話番号の変更	Myページで完了するお手続き
●保険料控除証明書の再発行	
●将来の保険料の試算や振込予約(前納)(*2)	
●保険料振替口座の変更	
●改姓·改名	Myページで書類取寄せができるお手続き
●契約者変更、受取人変更	
●給付金請求	
●年金請求	アップロードによる書類提出が可能な
●契約内容変更	お手続き
●海外渡航の手続き	

- (\*1)ライフプラン・コンサルタントからご加入いただいたお客さま専用のサービスです。
- (\*2)外貨建商品専用サービスです。
- (\*3)新契約お申し込み時に「保険証券等の電子化に関する特約」を付加されたお客さま専用のサービスです。

保険に愛という本質を

「公益財団法人日本社会福祉弘済会」はジブラルタ生命と提携し「福祉の共済」を推進しています。



## くっきり!

## 福祉の未来形

# 日社済の主な事業



#### 社会福祉助成事業

公募による社会福祉関係者の研修・研究事業等への助成を行っています。



#### アジア福祉助成事業

全国社会福祉協議会と連携した福祉の国際協力パートナーの養成と、その活動の支援・助成を行っています。



#### 空飛ぶ車いす支援事業

アジア等の障害をもつ方々への車いす修繕・寄贈を支援しています。



#### 社会福祉関係者の共済に関わる事業

福祉関係者の福利向上のために提携会社を通じて団体扱生命保険を提供しています。



公益財団法人日本社会福祉弘済会

